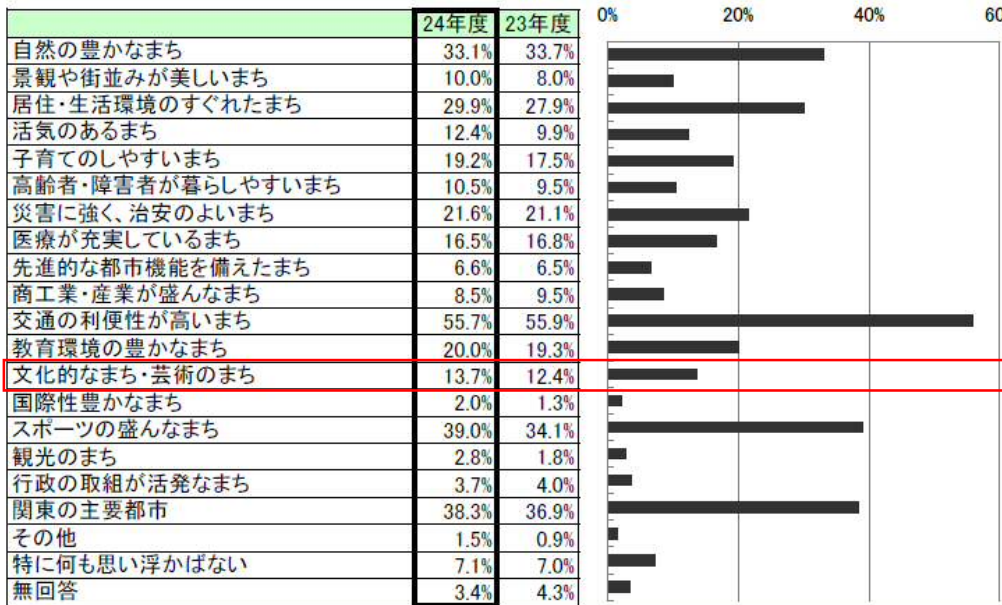


調査名		調査概要	主な設問
A. 市民意識調査	A－1. 在住者	①調査対象：市内在住の満 20 歳以上の男女 5,000 人 ②抽出方法：住民基本台帳にもとづく層化多段無作為抽出 ③調査方法：郵送配布・郵送回収法 ④調査期間：H24. 6. 1～6. 15 ⑤有効回収数：2,783ss（回収率 55.7％）	[問 7] さいたま市内の施設・名所等の認知度 [問 8] さいたま市の魅力 [問 9-1] さいたま市のイメージ [問 9-2] 魅力的な都市になるために発展すべき方向 [問 10] さいたま市の施策や事業の満足度 [問 17] 参加している、または参加したい文化芸術活動 [問 18] 過去 1 年間に文化芸術活動をした機会 [問 19] 市内で行いたい文化芸術活動
	A－2. 在勤者	①調査対象：市内に勤務する満 20 歳以上の男女 2,000 人 ②調査方法：事業所経由で郵送配布・郵送回収法 ③調査期間：H24. 6. 1～6. 15 ④有効回収数：721ss（回収率 36.1％）	[問 1] さいたま市内にある施設・名所・特産品などの認知度 [問 2] さいたま市の魅力 [問 4-1] さいたま市のイメージ [問 4-2] 魅力的な都市になるために発展すべき方向 [問 5-1] さいたま市内へ立ち寄る目的
B. 文化芸術活動団体調査		①調査対象：A 文化協会加盟団体(48 団体) B 対象施設(9 施設)利用団体 ②調査方法：A 郵送配布・郵送回収法 B 直接配布・直接回収法 ③調査期間：H24. 7. 24～8. 6 ④有効回収数：246ss	[Q1～5] 団体の属性[活動内容、会員数、年齢層、活動地域、活動場所] [Q6] 活動を行う上で困っていること [Q7] さいたま市を代表する文化芸術として広く発信すべきもの [Q8] 文化を活かしたまちづくりを行うために必要な取り組み
C. 市民文化芸術活動状況調査		①調査対象：さいたま市在住のネットリサーチモニター ②調査方法：インターネットによるネットリサーチ ③調査実施：H24. 7 ④回 収 数：300ss	■回答者属性 [Q1] 市内の文化芸術活動への参加 [月 1 回以上、年に数回] [Q2] 市外の文化芸術活動への参加 [月 1 回以上、年に数回] [Q3] さいたま市で行われる文化芸術活動の課題 [Q4] さいたま市を代表する文化芸術として広く発信すべきもの [Q5] 文化を活かしたまちづくりを行うために必要な取り組み
D. さいたま市イメージ調査		①調査対象：さいたま市を除く関東地方在住のネットリサーチモニター ②調査方法：インターネットによるネットリサーチ ③調査実施：H24. 7 ④回 収 数：700ss	■回答者属性 [Q1] さいたま市のイメージ [Q2] さいたま市への来訪経験 [Q3] 来訪しない理由 [Q4] さいたま市を訪れるきっかけとなる活動

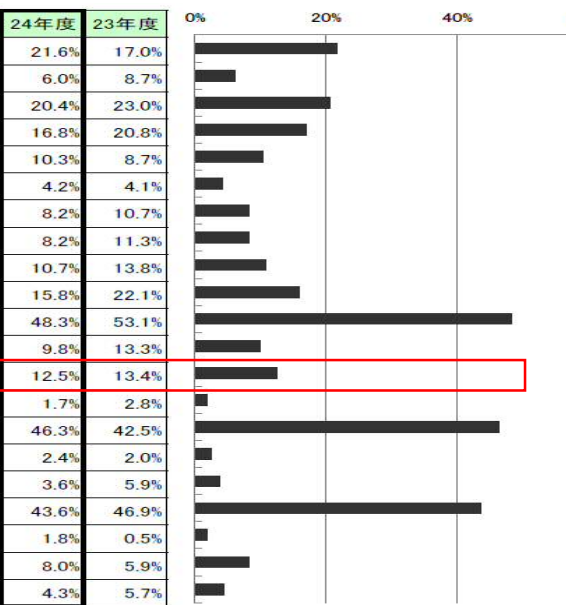
1. さいたま市のイメージと魅力 [市民意識調査、さいたま市イメージ調査]

①市民による評価／さいたま市のイメージ

A-1. 市民意識調査・在住 [問 9-1]

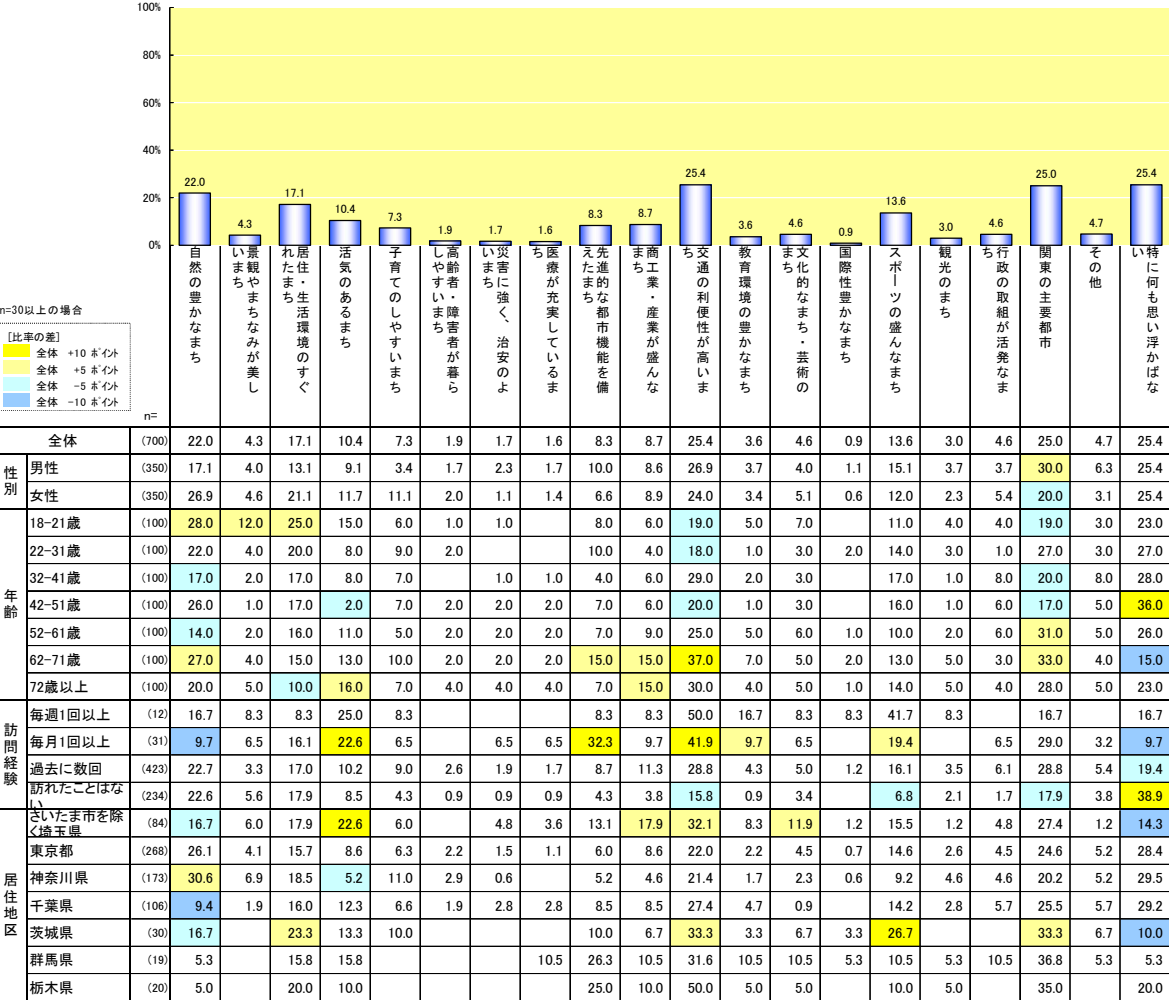


A-2. 市民意識調査・在勤 [問 4-1]



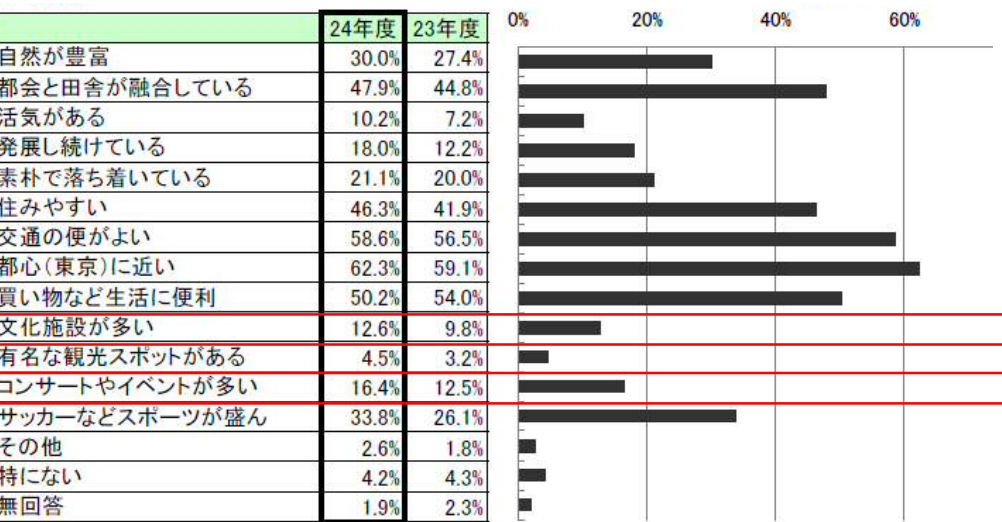
③市外からの評価：さいたま市のイメージ

D. さいたま市イメージ調査 [Q 1]

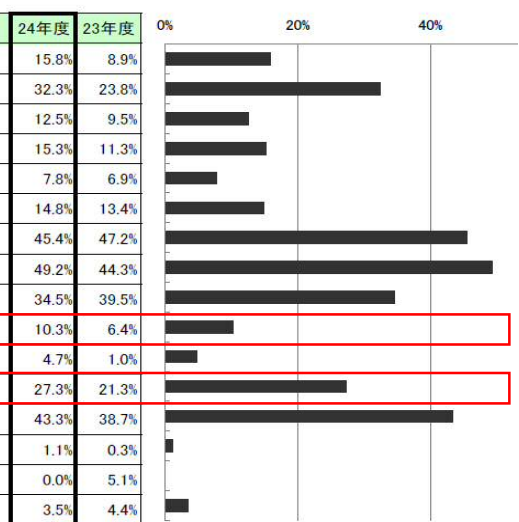


②市民による評価／さいたま市の魅力

A-1. 市民意識調査・在住 [問 8]



A-2. 市民意識調査・在勤 [問 2]



①さいたま市のイメージ

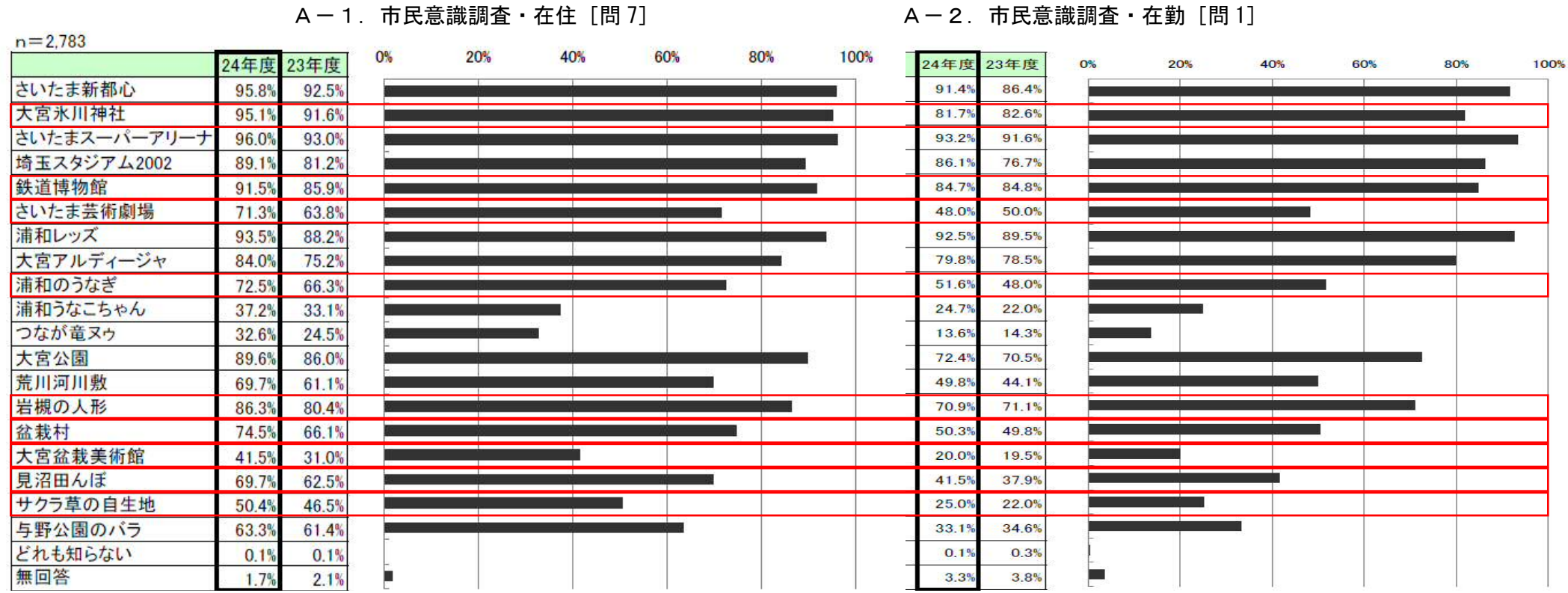
- ・市民意識調査において最も多いのは、「交通の利便性が高いまち」で、次いで、「スポーツの盛んなまち」。上位の順位について、在住・在勤で大きな違いは見られない。一方、「文化的なまち・芸術のまち」という回答は、在住 13.7% (18 件中 10 位、前年度比↑)、在勤 12.5% (18 件中 8 位、前年度比↓) で、大きな違いは見られない。
- ・市外居住者によるさいたま市のイメージは、市民と比べてそれぞれの割合は低いものの、全体的な傾向においては大きな違いは見られない。「文化的なまち・芸術のまち」は、4.6%で 18 件中 10 位。
- ・さいたま市のイメージについて「特に何も思い浮かばない」と答えた市外居住者は、全体の 25.4%に上る。属性別で特に高いのは、「42-51 歳」(36.0%)、「来訪経験がない」(38.9%)、「東京都・神奈川県・千葉県居住者」(28.4~29.5%)。

②さいたま市の魅力

- ・市民によるさいたま市の魅力で最も多いのは、「都心に近い」で、次いで「交通の便が良い」。「文化施設が多い」は、在住 12.6%、在勤 10.3%で、全体で見ると順位は低いものの、前年度と比べ上昇している。
- ・「コンサートやイベントが多い」は、在住 16.4%、在勤 27.3%と在勤が高くなっている。

2. さいたま市を代表する文化芸術資源 [市民意識調査、文化芸術団体等調査、さいたま市イメージ調査]

①文化芸術資源の認知度



①市民の文化芸術資源に対する認知度

・文化芸術に関連する資源で在住者の認知度が最も高いのは「大宮氷川神社」(95.1%)で、次いで「鉄道博物館」(91.5%)。在勤者では、順位が逆転しており、「鉄道博物館」(84.7%)、「大宮氷川神社」(81.7%)。3位はいずれも「岩槻の人形」(在住86.3%、在勤70.9%)。

・文化芸術に関連する資源で認知度が最も低いのは「大宮盆栽美術館」(在住41.5%、在勤20.0%)。ただし、在住では、前年度からの伸び率(H23年度31.0%、10.5%の上昇)は全地域資源中で最も高くなっている。加えて、「盆栽村」の認知度は在住74.5%、在勤50.3%と比較的高く、平成22年3月に開館した「大宮盆栽美術館」の認知が進んでいる途上にあるものと思われる。

②さいたま市を代表する文化芸術資源として広く発信するもの

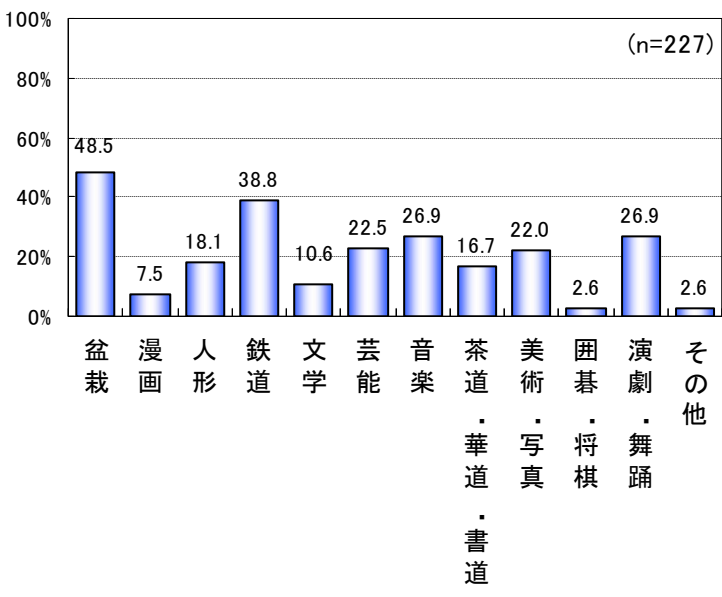
・文化芸術団体等調査においては、「盆栽」(48.5%)が最も高く、次いで「鉄道」(38.8%)。

・市民文化芸術活動状況調査においては、「鉄道」(61.3%)が最も高く、次いで「盆栽」(48.7%)。

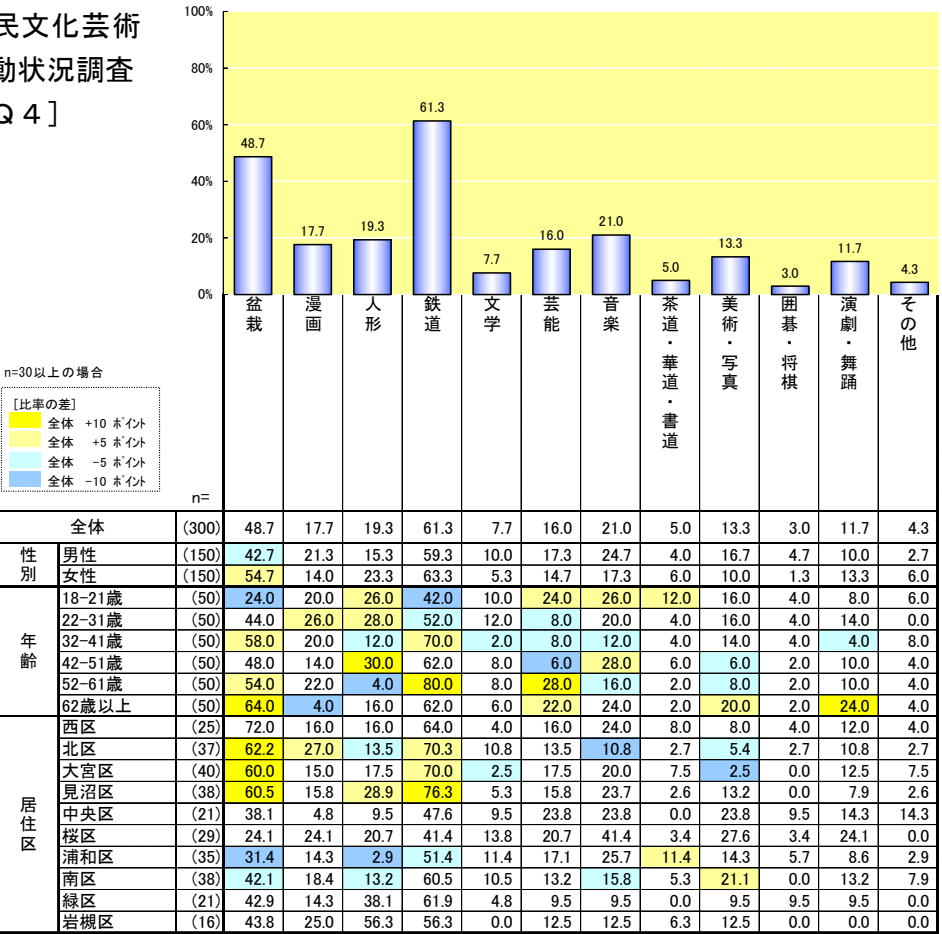
・市民文化芸術活動状況調査の内訳を見ると、「鉄道」については、年齢が高いほど割合が高くなる。居住地別では、「鉄道」「盆栽」ともばらつきが見られる(「盆栽」:桜区24.1%－西区72.0%、「鉄道」:桜区41.4%－見沼区76.3%)。

②さいたま市を代表する文化芸術資源として広く発信すべきもの

B. 文化芸術団体等調査 [Q 7]



C. 市民文化芸術活動状況調査 [Q 4]



3. 市民の文化芸術活動状況 [市民意識調査、文化芸術団体等調査、市民文化芸術活動状況調査]

①市民の文化芸術活動

A-1. 市民意識調査・在住 [問18]

過去1年間に文化芸術活動をした機会

n=2,783

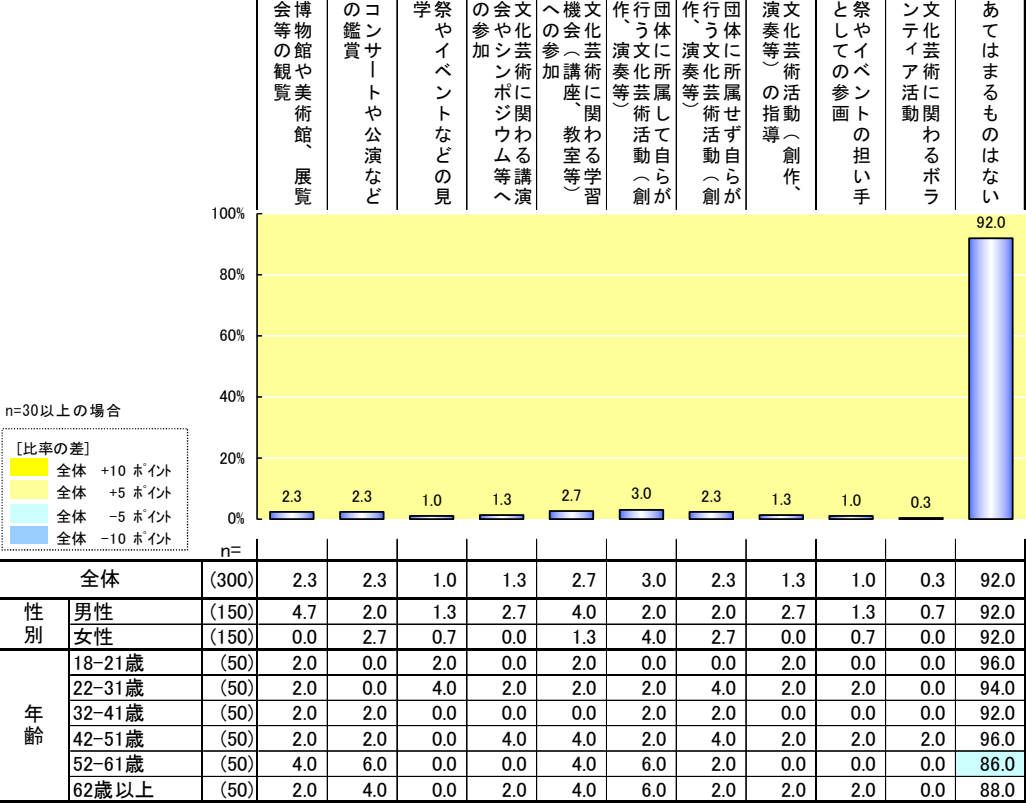
	24年度
週に3回以上	1.3%
週に2回程度	1.7%
週に1回程度	3.4%
月に1～3回程度	8.9%
年に数回程度	36.2%
活動していない	46.2%
無回答	2.3%



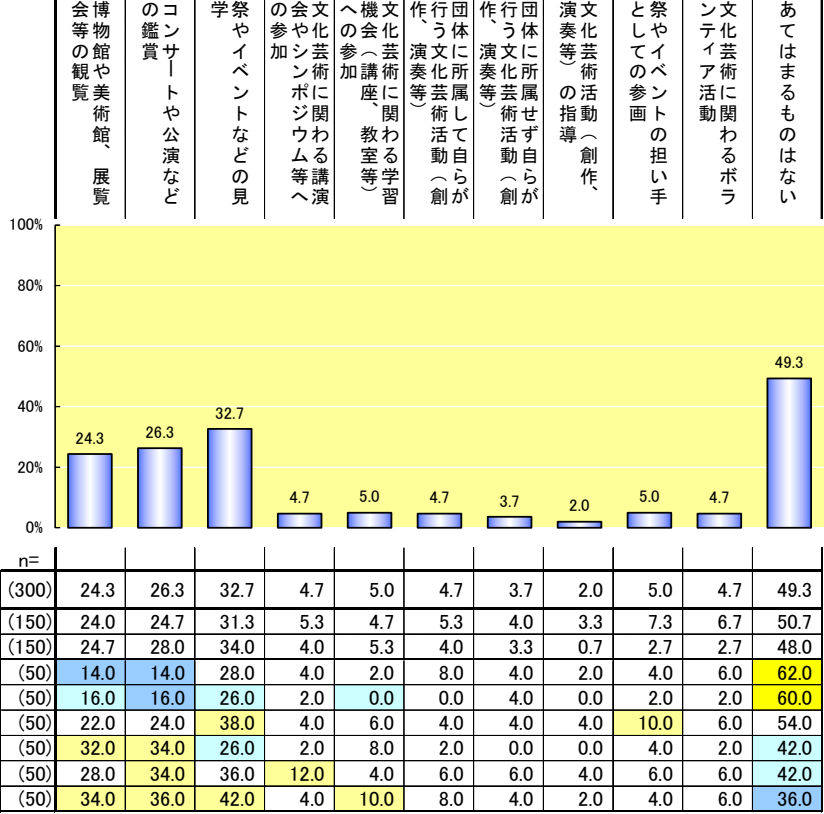
C. 市民文化芸術活動状況調査 [Q1]

C-1. 市内での活動

【月1回以上活動するもの】

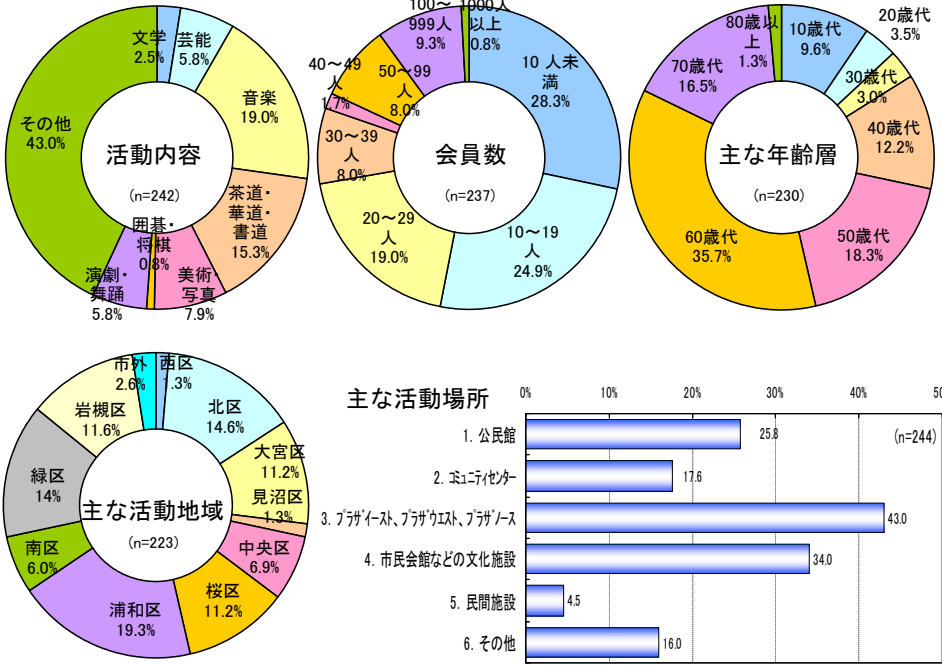


【年に数回活動するもの】



②文化芸術団体等の活動

B. 文化芸術団体等調査 [Q1～5]



①市民の文化芸術活動

- 市民意識調査より、文化芸術活動を行う頻度は、「毎週1回以上」が6.4%。「毎月1回以上」は、「毎週1回以上」を含め15.3%。「年に数回程度」は36.2%。「活動していない」が46.2%に上る。
- 市内及び市外で毎週活動している市民は、それぞれ10%未満にとどまる。市民意識調査の結果より、「週に1回以上」活動する市民が全体の6.4%にとどまることから、市外で活動する市民が市内でも活動するものと推測できる。
- 市内で年に数回参加する活動では「博物館等の観覧」(24.3%)、「コンサート等の鑑賞」(26.3%)、「祭などの見学」(32.7%)、市外で年に数回参加する活動としては「博物館等の観覧」(31.7%)、「コンサート等の鑑賞」(31.7%)、「祭などの見学」(26.7%)となっており、「博物館等の観覧」「コンサート等の鑑賞」においては市外での体験のほうが多い。
- 年齢別では、31歳以下の若い世代において、市内での文化芸術活動に参加しない割合が6割を超え高く、「博物館等の観覧」「コンサート等の鑑賞」への参加が非常に少ない。市外での活動では、あまり顕著な差は見られない。

②文化芸術活動団体等の活動

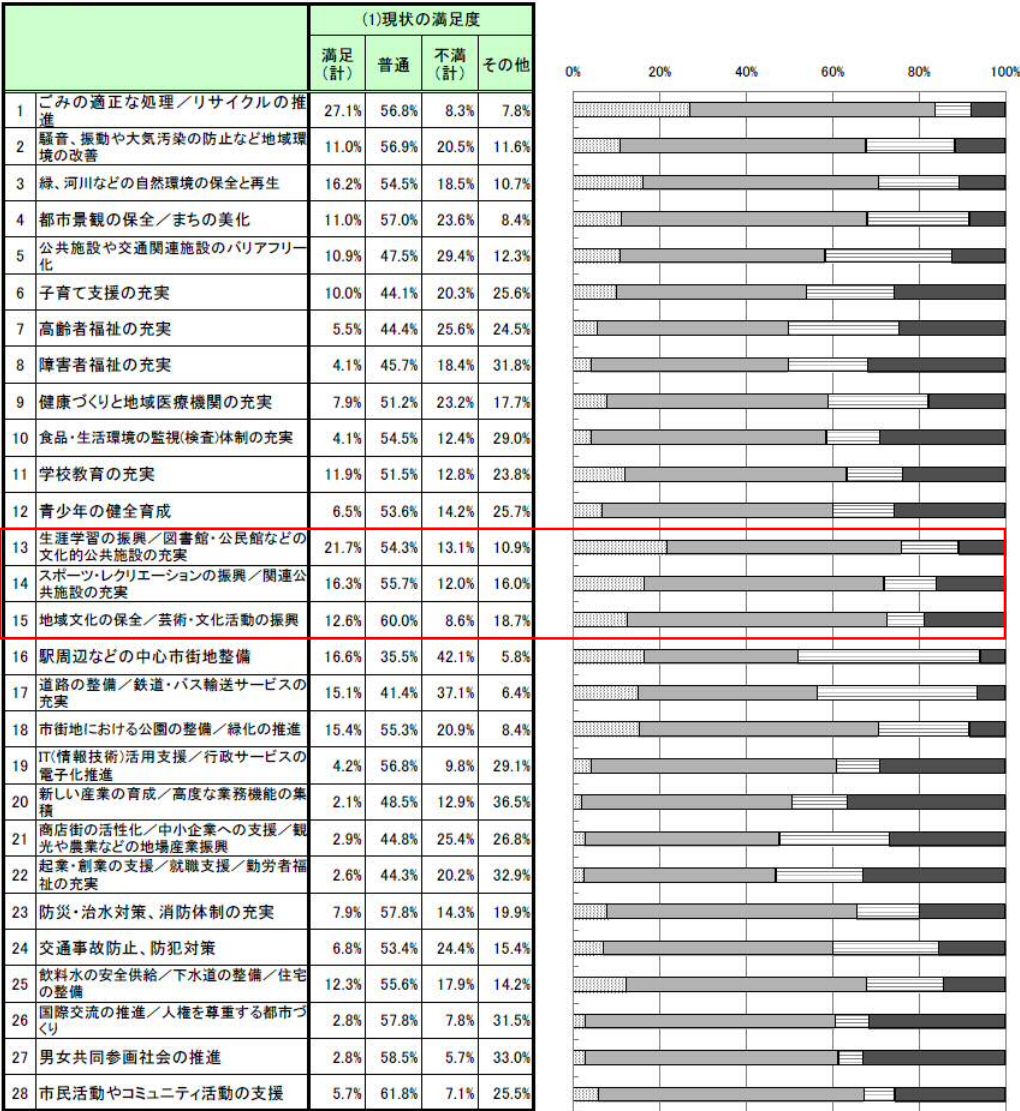
- 文化芸術活動団体等調査より、現在、市内の文化施設で活動を行っている団体の特徴としては、「音楽」「茶道・華道・書道」が多く、20人未満の団体が半数を超える。年齢層としては、60歳以上が半数を超える。

4. 現状の文化芸術を取り巻く環境の満足度 [市民意識調査、文化芸術団体等調査、市民文化芸術活動状況調査]

①施策に対する満足度

A-1. 市民意識調査・在住 [問10-(1)] 現在の満足度

n = 2,783



※満足(計)は、「満足」・「やや満足」の合計
※不満(計)は、「不満」・「やや不満」の合計
※その他は、「わからない」・「無回答」の合計

①施策に対する満足度

・「生涯学習の振興／図書館・公民館などの文化的公共施設の充実」(満足度2位:満足計21.7%、普通54.3%、不満計13.1%)、「スポーツ・レクリエーションの振興／関連公共施設の充実」(満足度3位:満足計16.3%、普通55.7%、不満計12.0%)、「地域文化の保全／芸術文化活動の振興」(満足度4位:満足計12.6%、普通60.0%、不満計8.6%)において、満足度が高い。

②文化芸術活動の課題

・市民文化芸術活動状況調査では「参加したい活動がない」(42.0%)が最も多い。ただ、「22-31歳」「32-41歳」では比較的低いことから、子育て世代の満足度が高いと考えられる。
・文化芸術活動団体等調査では、「課題は特にない」(31.4%)が最も多く、満足度が高い。次いで、「会員・後継者の減少」(30.0%)となっている。

A-1. 市民意識調査・在住 [問10] (1)～(3)の順位

【現状の満足度と今後の重視度の平均ポイント得点と順位】

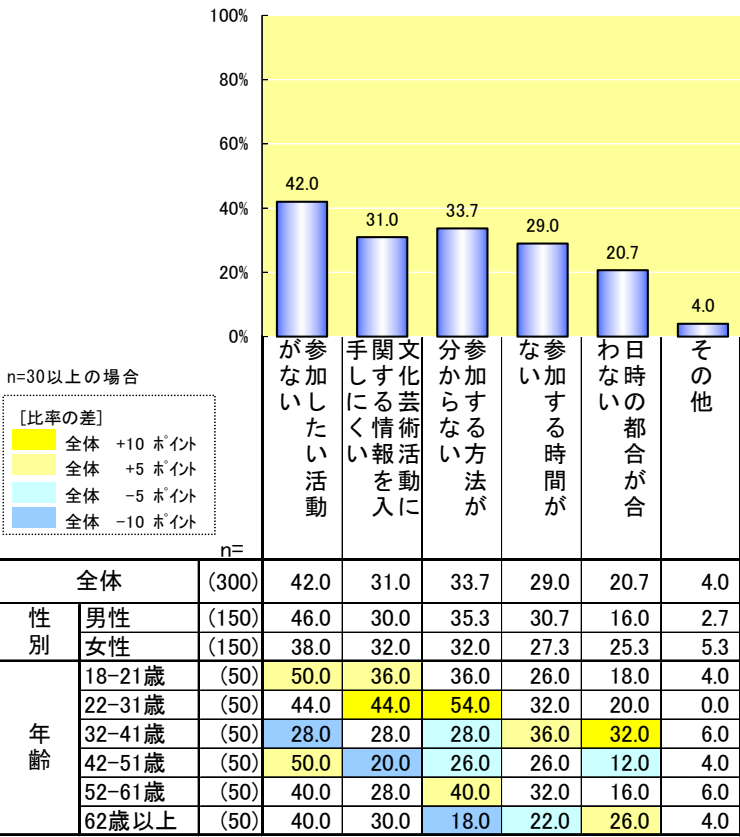
	現状の満足度				今後の重視度				今後力を入れて欲しい施策や事業	
	順位 (H24)	得点 (H24)	順位 (H23)	得点 (H23)	順位 (H24)	得点 (H24)	順位 (H23)	得点 (H23)	順位	割合 (%)
1 ごみの適正な処理／リサイクルの推進	1	0.26	1	0.25	13	0.90	11	0.99	11	15.1
2 騒音、振動や大気汚染の防止など地域環境の改善	16	-0.13	17	-0.21	8	0.92	9	1.00	10	16.0
3 緑、河川などの自然環境の保全と再生	8	-0.04	7	-0.09	12	0.91	8	1.00	12	15.1
4 都市景観の保全／まちの美化	19	-0.18	18	-0.22	15	0.81	15	0.87	18	10.7
5 公共施設や交通関連施設のバリアフリー化	24	-0.26	22	-0.31	6	0.94	7	1.01	13	13.9
6 子育て支援の充実	18	-0.15	16	-0.19	10	0.92	5	1.02	6	28.0
7 高齢者福祉の充実	25	-0.27	25	-0.41	1	1.14	1	1.21	1	41.1
8 障害者福祉の充実	20	-0.19	24	-0.35	11	0.91	10	1.00	14	12.9
9 健康づくりと地域医療機関の充実	21	-0.21	21	-0.30	2	0.98	2	1.06	8	22.7
10 食品・生活環境の監視(検査)体制の充実	14	-0.11	15	-0.18	17	0.75	16	0.85	19	10.1
11 学校教育の充実	6	-0.03	9	-0.10	14	0.87	13	0.96	9	20.9
12 青少年の健全育成	15	-0.11	14	-0.16	16	0.77	17	0.83	20	9.7
13 生涯学習の振興／図書館・公民館などの文化的公共施設の充実	2	0.09	2	0.08	19	0.64	19	0.70	21	8.6
14 スポーツ・レクリエーションの振興／関連公共施設の充実	3	0.04	3	0.01	22	0.48	22	0.49	22	5.9
15 地域文化の保全／芸術・文化活動の振興	4	0.04	4	-0.01	23	0.43	23	0.44	25	3.6
16 駅周辺などの中心市街地整備	28	-0.40	27	-0.46	4	0.95	12	0.97	4	29.3
17 道路の整備／鉄道・バス輸送サービスの充実	27	-0.32	23	-0.34	7	0.92	14	0.95	5	29.0
18 市街地における公園の整備／緑化の推進	11	-0.09	12	-0.14	18	0.69	18	0.76	16	12.6
19 IT(情報技術)活用支援／行政サービスの電子化推進	10	-0.08	11	-0.14	27	0.23	27	0.27	27	3.1
20 新しい産業の育成／高度な業務機能の集積	17	-0.14	20	-0.26	24	0.32	24	0.38	23	5.7
21 商店街の活性化／中小企業への支援／観光や農業などの地域産業振興	26	-0.31	28	-0.47	20	0.56	20	0.68	15	12.9
22 起業・創業の支援／就職支援／勤労者福祉の充実	23	-0.24	26	-0.42	21	0.53	21	0.66	17	11.0
23 防災・治水対策、消防体制の充実	13	-0.09	10	-0.11	9	0.92	4	1.03	2	30.8
24 交通事故防止、防犯対策	22	-0.23	19	-0.25	3	0.97	6	1.02	3	29.4
25 飲料水の安全供給／下水道の整備／住宅の整備	12	-0.09	13	-0.14	5	0.95	3	1.04	7	24.9
26 国際交流の推進／人権を尊重する都市づくり	9	-0.06	8	-0.09	25	0.27	25	0.34	26	3.5
27 男女共同参画社会の推進	7	-0.03	6	-0.08	28	0.18	28	0.21	28	1.7
28 市民活動やコミュニティ活動の支援	5	-0.02	5	-0.04	26	0.27	26	0.29	24	5.0

※得点については、下記のとおり、各項目ごとに点を与え、回答者数で加重し、平均得点を求めています。
①現状の満足度: 満足 +2・やや満足 +1・普通 0・やや不満 -1・不満 -2
②今後の重視度: 重視する +2・やや重視する +1・普通 0・あまり重視しない -1・全く重視しない -2

②現状の課題

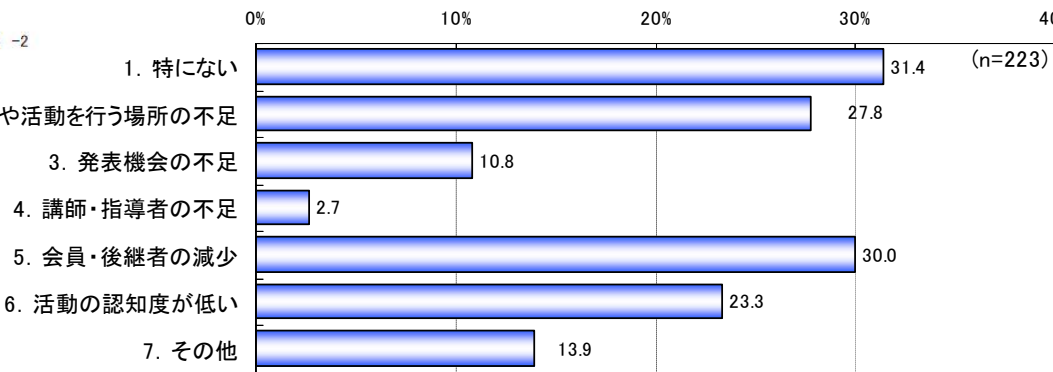
C. 市民文化芸術活動状況調査 [Q3]

さいたま市で行われる芸術文化活動の課題



B. 市民文化芸術活動団体等調査 [Q6]

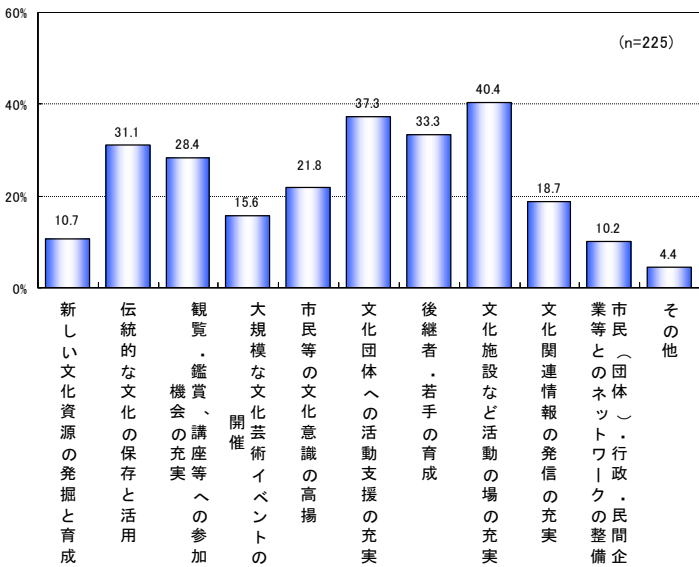
活動を行う上で困っていること



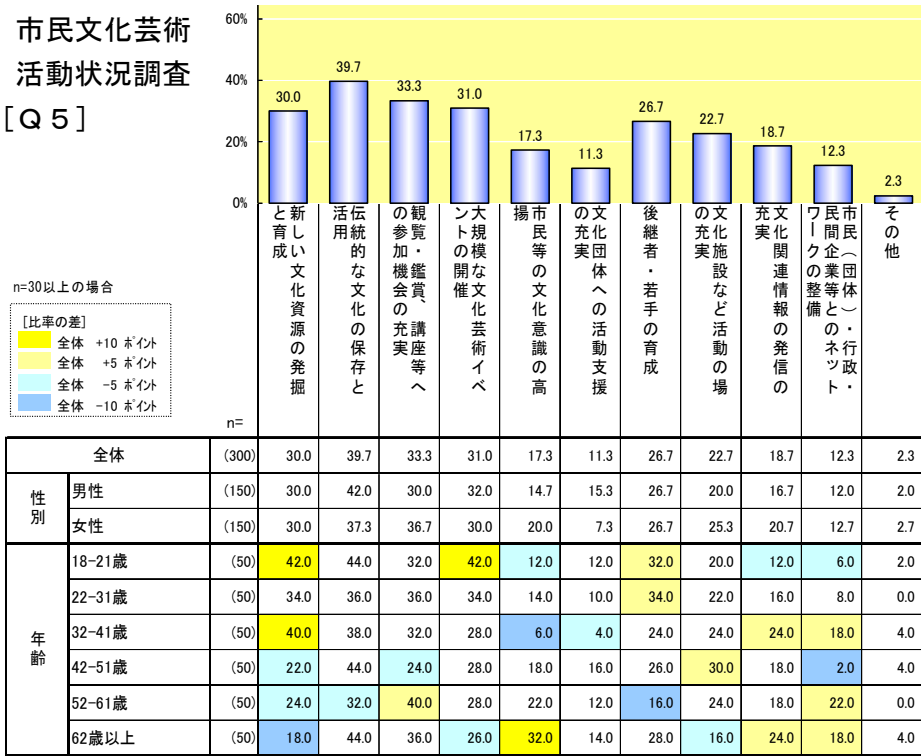
5. 文化芸術を活かしたまちづくりに必要な取り組み [市民意識調査、文化芸術団体等調査、さいたま市イメージ調査]

①文化芸術を活かしたまちづくりに必要な取り組み

B. 文化芸術活動団体等調査 [Q 8]



C. 市民文化芸術活動状況調査 [Q 5]

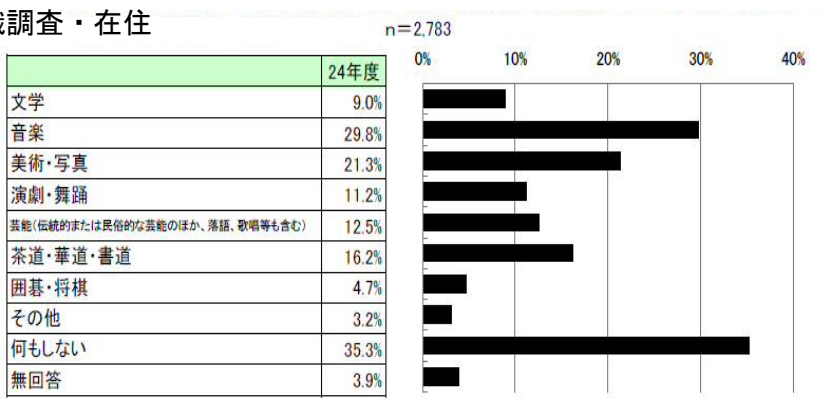


②行いたい文化芸術活動

A-1. 市民意識調査・在住

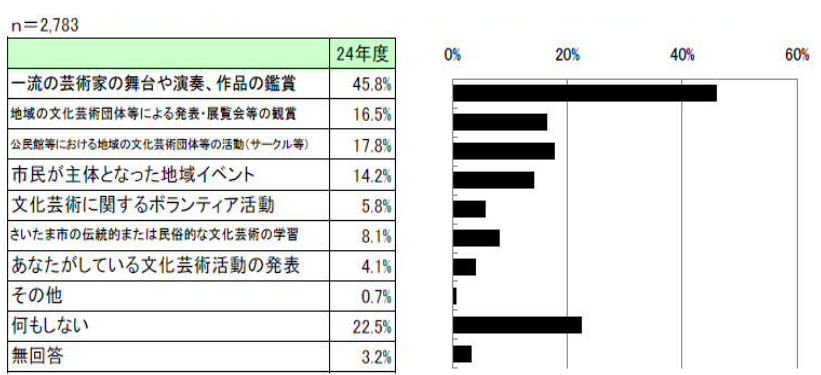
[問 17]

参加している、参加したい文化芸術活動



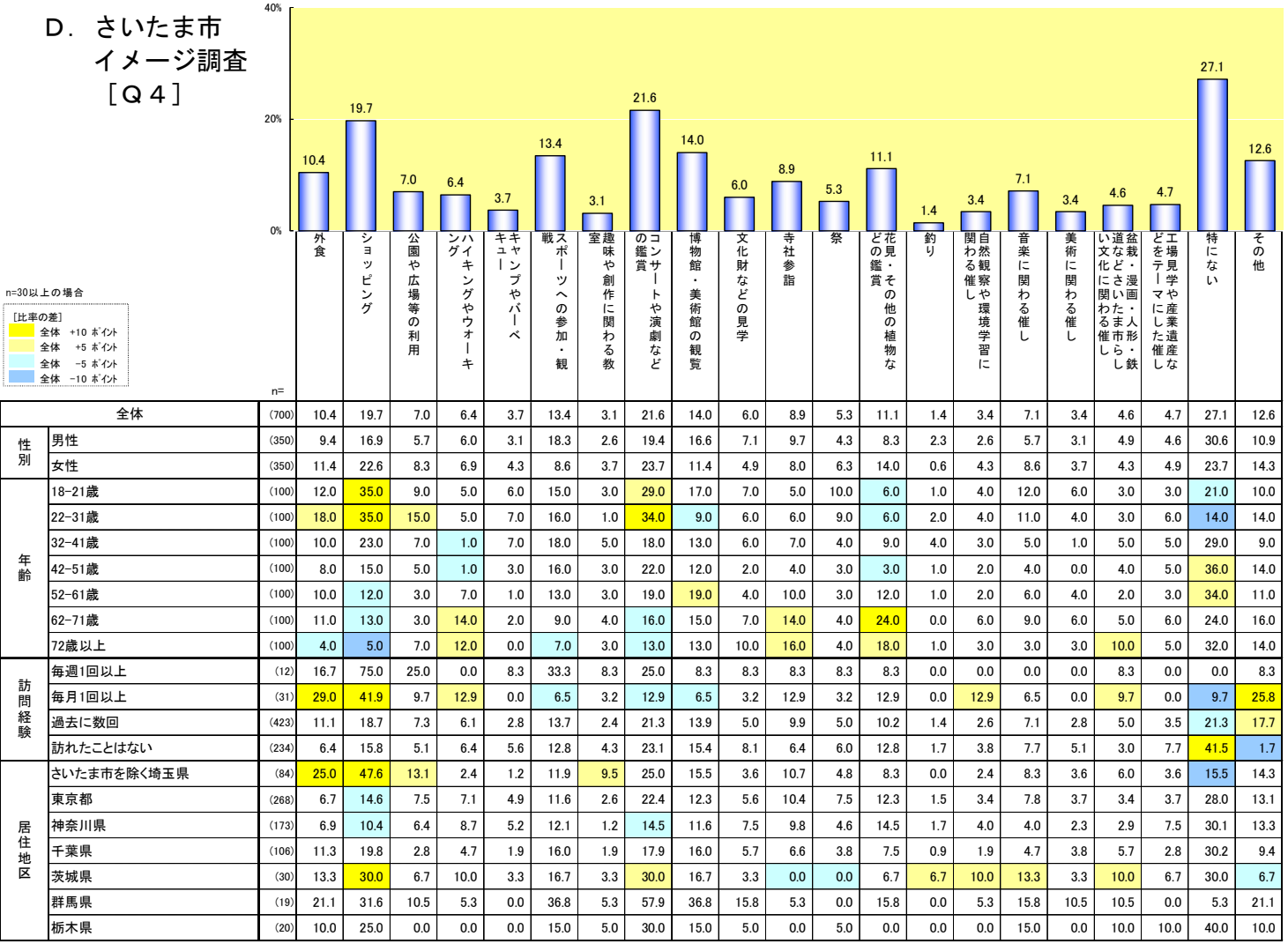
[問 19]

市内で行いたい文化芸術活動



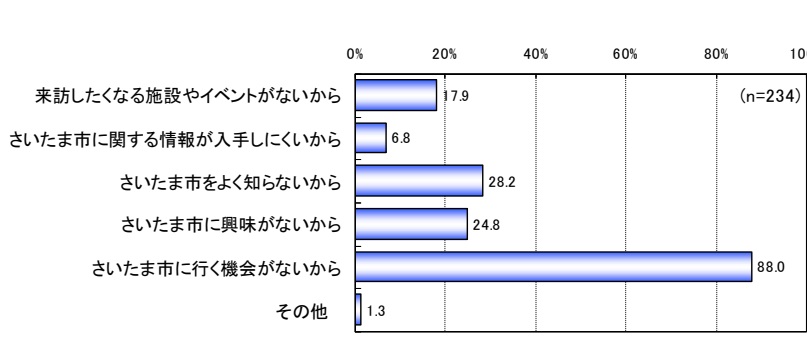
③さいたま市を訪れるきっかけ

D. さいたま市イメージ調査 [Q 4]



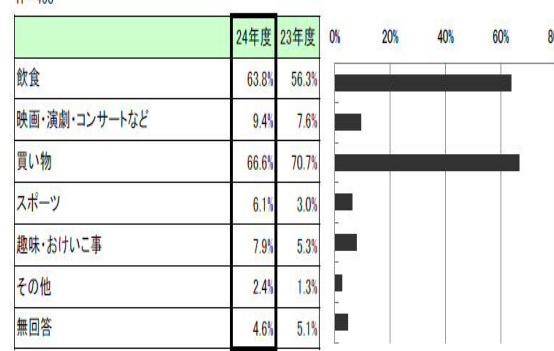
D. さいたま市イメージ調査

[Q 3] さいたま市を来訪しない理由



A-2. 市民意識調査・在勤

[問 5-1] 市内に立ち寄る目的



①文化芸術を活かしたまちづくりの取り組み

・文化芸術活動団体等調査では「文化施設などの活動の場の充実」（40.4%）、次いで「文化団体への活動支援の充実」（37.3%）。
・市民文化芸術活動状況調査では、「伝統的な文化の保存と活用」（39.7%）、次いで「観覧等への参加機会の充実」（33.3%）、「大規模な文化芸術イベントの開催」（31.0%）、「新しい文化資源の発掘と育成」（30.0%）の順。

②行いたい文化芸術活動

・市民意識調査より、参加している、参加したい分野としては「音楽」（29.8%）、「美術・写真」（21.3%）などが高い。
・市内で行いたい活動としては、「一流の芸術の鑑賞」（45.8%）が特に高い。

③さいたま市を訪れるきっかけ

・在勤者では「買い物」（66.6%）、「飲食」（63.8%）が特に多い。
・さいたま市イメージ調査において市外居住者は、「コンサート等の鑑賞」（21.6%）、「ショッピング」（19.7%）などのきっかけがあれば来訪する可能性があると考えている。

●調査結果のまとめ

分析項目		回答概要	分 析
1. さいたま市のイメージと魅力	①さいたま市のイメージ	・市民意識調査において最も多いのは、「交通の利便性が高いまち」で、次いで、「スポーツの盛んなまち」。上位の順位について、在住・在勤で大きな違いは見られない。一方、「文化的なまち・芸術のまち」という回答は、在住 13.7％（18 件中 10 位、前年度比↑）、在勤 12.5％（18 件中 8 位、前年度比↓）で、大きな違いは見られない。 ・市外居住者によるさいたま市のイメージは、市民と比べてそれぞれの割合は低いものの、全体的な傾向においては大きな違いは見られない。「文化的なまち・芸術のまち」は、4.6％で 18 件中 10 位。 ・さいたま市のイメージについて「特に何も思い浮かばない」と答えた市外居住者は、全体の 25.4％に上る。属性別で特に高いのは、「42-51 歳」（36.0％）、「来訪経験がない」（38.9％）、「東京都・神奈川県・千葉県居住者」（28.4～29.5％）。	「文化的なまち・芸術のまち」のイメージは、市民及び関東地域の居住者ともに低い。一方で、「交通の利便性が高いまち」のイメージが市内外に定着していることから、来訪促進には有利であると言える。 市民及び在勤者によるさいたま市の魅力として、「都心に近い」「交通の便が良い」などが挙げられている。「コンサートやイベントの多さ」は在勤者から評価が高いことから、在勤者の多い周辺市町村への広報強化により、集客力向上の可能性が高い。 さらに、関東地域居住者でさいたま市に対して具体的なイメージを持たない人が 25％以上見られることから、新たな魅力の発信により、認知度の向上と都市イメージの構築が求められる。
	②さいたま市の魅力	・市民によるさいたま市の魅力で最も多いのは、「都心に近い」で、次いで「交通の便が良い」。「文化施設が多い」は、在住 12.6％、在勤 10.3％で、順位は低いものの、前年度に比べ上昇している。 ・「コンサートやイベントが多い」は、在住 16.4％、在勤 27.3％で、在勤のほうが高くなっている。	
2. さいたま市を代表する文化芸術資源	①市民の文化芸術資源に対する認知度	・文化芸術に関連する資源で在住者の認知度が最も高いのは「大宮氷川神社」（95.1％）で、次いで「鉄道博物館」（91.5％）。在勤者では順位が逆転し、「鉄道博物館」（84.7％）、「大宮氷川神社」（81.7％）。3 位はいずれも「岩槻の人形」（在住 86.3％、在勤 70.9％）。 ・文化芸術に関連する資源で認知度が最も低いのは「大宮盆栽美術館」（在住 41.5％、在勤 20.0％）。ただし、在住では、前年度からの伸び率（H23 年度 31.0％、10.5％の上昇）は全地域資源中で最も高くなっている。加えて、「盆栽村」の認知度は在住 74.5％、在勤 50.3％と比較的高く、平成 22 年 3 月に開館した「大宮盆栽美術館」の認知が進んでいる途上にあると思われる。	さいたま市の魅力ある資源（盆栽、漫画、人形、鉄道）に関するもののうち、認知度が高いのは、「鉄道博物館」と「岩槻の人形」（「漫画」に関する選択肢は設定されていない）。 一方で、さいたま市を代表し広く発信すべき資源としては、「盆栽」と「鉄道」が高い支持を集めている。その他の資源としては、「音楽」への参加者も多く、支持を集めている。さいたま市の魅力ある資源である「人形」「漫画」については、「音楽」を下回っている。「鉄道」「盆栽」も各区で評価にばらつきが見られ、魅力ある資源の価値を伝える活動を継続し市内での浸透を推進する必要がある。
	②さいたま市を代表する文化芸術資源として広く発信するもの	・文化芸術団体等調査においては、「盆栽」（48.5％）が最も高く、次いで「鉄道」（38.8％）。 ・市民文化芸術活動状況調査においては、「鉄道」（61.3％）が最も高く、次いで「盆栽」（48.7％）。 ・市民文化芸術活動状況調査の内訳を見ると、「鉄道」については、年齢が高いほど割合が高くなる。居住地別では、「鉄道」「盆栽」ともばらつきが見られる（「盆栽」：桜区 24.1％－西区 72.0％、「鉄道」：桜区 41.4％－見沼区 76.3％）。	
3. 市民の文化芸術活動状況	①市民の文化芸術活動	・市民意識調査より、文化芸術活動を行う頻度は、「毎週 1 回以上」が 6.4％。「毎月 1 回以上」は、「毎週 1 回以上」を含め 15.3％。「年に数回程度」は 36.2％。「活動していない」が 46.2％に上る。 ・市内及び市外で毎週活動している市民はそれぞれ 10％未満にとどまる。市民意識調査の結果より、「週に 1 回以上」活動する市民が全体の 6.4％にとどまることから、市外で活動する市民が市内でも活動するものと推測できる。 ・市内で年に数回参加する活動では「博物館等の観覧」（24.3％）、「コンサート等の鑑賞」（26.3％）、「祭などの見学」（32.7％）、市外で年に数回参加する活動としては「博物館等の観覧」（31.7％）、「コンサート等の鑑賞」（31.7％）、「祭などの見学」（26.7％）となっており、「博物館等の観覧」「コンサート等の鑑賞」においては市外での体験のほうが多い。 ・年齢別では、31 歳以下の若い世代において、市内での文化芸術活動に参加しない割合が 6 割を超え高く、「博物館等の観覧」「コンサート等の鑑賞」への参加が非常に少ない。市外での活動では、あまり顕著な差は見られない。	文化芸術活動を日常的に行う市民はごく一部にとどまり、全く活動しない市民も半数近く見られる。 年に数回活動するものとしては、「博物館等の観覧」「コンサート等の鑑賞」「祭などの見学」など受動的な活動が主体であり、市内外で活動を行っている。「自らが行う文化芸術活動」「ボランティア活動」など能動的な活動への参加は、市内外とも 5％未満にとどまる。市内と市外とで大きな違いはないが、「博物館」「コンサート」は市外が高く、「祭」は市内が高い。 31 歳以下は全般的に参加が少なく、市内での「博物館等」「コンサート等」への参加が特に低いことから、若者への働きかけが課題。
	②文化芸術活動団体等の活動	・文化芸術活動団体等調査より、現在、市内の文化施設で活動を行っている団体の特徴としては、「音楽」「茶道・華道・書道」が多く、20 人未満の団体が半数を超える。年齢層としては、60 歳以上が半数を超える。	
4. 現状の文化芸術を取り巻く環境の満足度	①施策に対する満足度	・「生涯学習の振興／図書館・公民館などの文化的公共施設の充実」（満足度 2 位：満足計 21.7％、普通 54.3％、不満計 13.1％）、「スポーツ・レクリエーションの振興／関連公共施設の充実」（満足度 3 位：満足計 16.3％、普通 55.7％、不満計 12.0％）、「地域文化の保全／芸術文化活動の振興」（満足度 4 位：満足計 12.6％、普通 60.0％、不満計 8.6％）において、満足度が高い。	これまで推進してきた施設整備や文化芸術活動振興に対して、市民から一定の評価は得られているものの、前述（1－①参照）のとおり、「文化的なまち・芸術のまち」としての都市イメージにつながっておらず、都市イメージを高める取り組みが課題である。 また、文化芸術活動団体等からは、「文化施設などの活動の場の充実」（5－①参照）を求める意見が見られる。
	②文化芸術活動の課題	・市民文化芸術活動状況調査では「参加したい活動がない」（42.0％）が最も多い。ただ、「22-31 歳」「32-41 歳」では比較的低いことから、子育て世代の満足度が高いと考えられる。 ・文化芸術活動団体等調査では、「課題は特にない」（31.4％）が最も多く、満足度が高い。次いで、「会員・後継者の減少」（30.0％）となっている。	
5. 文化芸術を活かしたまちづくりに必要な取り組み	①文化芸術を活かしたまちづくりの取り組み	・文化芸術活動団体等調査では「文化施設などの活動の場の充実」（40.4％）、次いで「文化団体への活動支援の充実」（37.3％）。 ・市民文化芸術活動状況調査では、「伝統的な文化の保存と活用」（39.7％）、次いで「観覧等への参加機会の充実」（33.3％）、「大規模な文化芸術イベントの開催」（31.0％）、「新しい文化資源の発掘と育成」（30.0％）の順。	「伝統的な文化の保存と活用」「観覧等への参加機会の充実」に加え、「大規模な文化芸術イベントの開催」や「新しい文化資源の発掘と育成」など新たな文化芸術に関する取り組みが求められている。人気のある分野としては「音楽」「美術・写真」などで、「一流の芸術の鑑賞」の機会が求められている。 また、利便性の高いまちという都市イメージを活かし、コンサートやショッピングなどを目的にした市外からの来訪促進が可能である。
	②行いたい文化芸術活動	・市民意識調査より、参加している、参加したい分野としては「音楽」（29.8％）、「美術・写真」（21.3％）などが高い。 ・市内で行いたい活動としては、「一流の芸術の鑑賞」（45.8％）が特に高い。	
	③さいたま市を訪れるきっかけ	・在勤者では「買い物」（66.6％）、「飲食」（63.8％）が特に多い。 ・さいたま市イメージ調査において市外居住者は、「コンサート等の鑑賞」（21.6％）、「ショッピング」（19.7％）などのきっかけがあれば来訪する可能性がある」と答えている。	